

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受験番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

京華中学校・京華女子中学校

問題は次のページからです。

1

文章1

文章2

を読んで、あとの問題に答えなさい。

(＊印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

店で商品を購入するとき、金銭との交換が行われる。でも、バレン
 タインデーにチョコレートを贈るときには、その対価が支払われるこ
 とはない。好きな人に思い切って、「これ受けとってください」とチョコ
 レートを渡したとき、「え？ いくらだったの？」と財布からお金を
 とり出されたりしたら、たいへんな屈辱になる。

贈り物をもらう側も、その場では対価を払わずに受けとることが求
 められる。このチョコレートを「渡す／受けとる」という行為は贈与
 であって、売買のような商品交換ではない。だから「経済」とは考え
 られない。

では、ホワイトデーにクッキーのお返しがあるとき、それは「交換」
 になるのだろうか。この行為も、ふつうは贈与への「返礼」として、商
 品交換から区別される。たとえばほとんど等価のものがやりとりされて
 いても、それは売買とは違う。そう考えられている。

商品交換と贈与を区別しているものはなにか？

フランスの社会学者ピエール・ブルデュは、その区別をつくりだし
 ているのは、モノのやりとりのあいだに差しはさまれた「時間」だと
 指摘した。

たとえば、チョコレートをもらって、すぐに相手にクッキーを返し

たしたら、これは等価なものを取引する経済的な「交換」となる。と
 ころが、そのチョコレートの代金に相当するクッキーを一カ月後に渡
 したとしても、それは商品交換ではない。返礼という「贈与」の一部と
 みなされる。このとき、やりとりされるモノの「等価性」は＊伏せら
 れ、「交換」らしさが消える。

商品交換と贈与を分けているものは時間だけではない。お店でチョコ
 レートを購入したあと、そのチョコレートに値札がついていたら、
 かならずその値札をはずすだろう。さらに、チョコレートの箱にリボ
 ンをつけたり、それらしい包装をしたりして、「贈り物らしさ」を演出
 するにちがいない。

店の棚にある値札のついたチョコレートは、それが客への「贈り物」
 でも、店内の「装飾品」でもなく、お金を払って購入すべき「商品」
 だと、誰も疑わない。でもだからこそ、その商品を購入して、贈り物
 として人に渡すときには、その「商品らしさ」をきれいにそぎ落とし
 て、「贈り物」に仕立てあげなければならない。

なぜ、そんなことが必要になるのか？

ひとつには、ばくらが「商品／経済」と「贈り物／非経済」をきちんと
 区別すべきだという「きまり」にとても忠実だからだ。この区別を
 とおして、世界の＊リアリティの＊一端がかたちづくられているとさ
 えいえる。

そして、それはチョコレートを購入すること、プレゼントとして
 贈ることが、なんらかの外的な表示でしか区別できないことを示して

もいる。

たとえば、バレンタインの日にコンビニの袋ふくろに入った板チョコをレシートとともに渡されたとしたら、それがなにを意図しているのか、戸惑とまどってしまうだろう。でも同じチョコレートがきれいに包装されてリボンがつけられ、メッセージカードなんかが添そえられていたら、たとえ中身が同じ商品でも、まったく意味が変わってしまう。ほんの表面的な「印」の違いが、歴然とした*差異さを生む。

ぼくらは同じチョコレートが人と人とのあいだでやりとりされることが、どこかで区別しがたい行為だと感じている。だから、わざわざ「商品らしさ」や「贈り物らしさ」を演出しているのだ。

ぼくらは人とのモノのやりとりを、そのつど経済的な行為にしたり、経済とは関係のない行為にしたりしている。「経済化」商品らしくすることだっは、「脱経済化」贈り物にすることとの対比のなかで実現すること。こうやって日々、みんなが一緒いっしょになって「経済／非経済」を区別するという「きまり」を維持いじしているのだ。

（松村圭一郎『うしろめたさの人類学』による。一部改変。）
まつむらけいいちろう

〔注〕

屈辱

—— 恥はずかしい思いをさせられること。

伏せ（る）

—— かくす。

リアリティ

—— 現実らしさ。真実味。

一端

—— 一部分。

差異

—— ちがひ。

文章2

二十年ほど前になるだろうか、ある*シンポジウムで、日本のデザイン界の*重鎮じゅうてんともいべき方と同席した。彼は、デザインとは「表面を変える」ことだと、きわめて明快に言い放った。目の前のマイクをさして、「これをラッカーで黄色に塗るぬでしょう、するとマイクはまったく別の存在そんざいになってしまいます」と。

デザインのこの定義にはうなった。ファッションデザインなんかを考えると、もともと分かりやすいかもしれないが、モノの、あるいはひとの、表面を変えることで、それに接するひとの気分が変わり、取り扱いあつかが変わる。つまり、関係がごろっと変わってしまうのである。

現代を代表するデザイナーのひとり、深澤直人ふかさわなおとさんもまた、デザインとは「サーフェスの変形」だと言う。サーフェスとはやはり「表面」ということだが、このときにはじぶん以外のものとの接点、もしくはそれにふれたときの感触かんしよくという*ニュアンスがより強い。サーフェスを変えることで、ひとのふるまいが変わる。何かをしなくなる、何かをさぐりにゆく、身体がむずむずする……。

その深澤さんは、ある著作ちよさくのなかでとても大切なことを言っている。建築から番組制作まで、*おどろきなデザインというのは、どこかひとを軽く*あしらったところがある。「『こんなものでいい』と思いつながら作られたものは、それを手にする人の存在を否定ひていする」というのである。

そして、深澤さんはこう続ける。人間は「あなたは大切な存在で、生きている価値かちがある」というメッセージをいつも探し求めている生きもの

だ。だから、「これは大事に使わなければならない」と思わせるもの、あるいは逆に、「手に取った瞬間しゅんかんにモノを通じて自分が大事にされていることが感じられる」もの、それがよいデザインだというのである。

① いろいろ思い当たるふしがある。わたしが通った小学校は、明治のはじめに造られた古い学校である。何度か改築されたのだろうが、わたしたちの教室があった本館は当時のままである。通っているときには気づかなかったが、先日四十年ぶりに訪れて、おどろいた。段差だんさの小さい階段は大理石、手すりは彫りほをほどこした木製の柔らかい手ざわりのものだった。子どもたちは無意識に、おとなたちがじぶんたちを大事に思っていることを、校舎をかけずり回りながら、肌はだで感じていたにちがいない。

歩いていていい街だなあと感じるときにも、同じような思いに浸ひたされる。掃除そうじが行きとどいているということもあるが、それも含めて、住民がじぶんたちの住む場所を大切に思っているらしいことが、そこかしこで感じられる街は、どこか*風格がある。

人間についてもきつと、同じことが言えるのだろうか。もうどうでもいいと、じぶんの身体を傷きずつけたり、自暴自棄じぼうじきになったりするのとは、じぶんのことを大切に思えないような状態のなかにいるということだ。じぶんを大事に思う気持ち、これは昔から「自尊心じそんしん」と呼ばれてきたが、「自尊心」もまた、他人に大事にされてきた、ていねいに扱われているという体験を折り重ねるなかで、じぶんはそれほど大切な存在なのだと思われるところからしか生まれてこない。

たしかにいまの子どもはたつぷりと*玩具がんぐを与あたえられる。ぬいぐるみ、

積み木、子ども用のカラオケ、ゲーム機。合成繊維^{せんい}、ビニール、プラスチック、そして電子の声……。ほとんどの玩具が、深澤さん流の言い方をすると、「こんなものでいいでしょ」という感覚で作られている。はたして、ここからはどんな「自尊心」が生まれるのだろうか。

心理学者の霜山徳爾^{しもやま とくじ}さんがある料理人の言葉として紹介^{しょうかい}しているのに、こんながある。「ものの味^{あじ}わいの判^{わか}る人は人情も判^{わか}るのではないかと思^{おも}いやす」。じぶんのために働^{はたら}いてくれるひとへの思いがないと、味は分^わからないというのである。じぶんのために何かをしてもらっている、じぶんがていねいに、そして大事に扱^{あつか}われている、そういう体験こそが、いつか「自立」のための、栄養^{えいよう}たっぷりの*腐葉土^{ふようど}になるのだと思^{おも}う。

^{わしだきよかず}（鷺田清一）「デザインの思想」（『大事なものは見えにくい』所収^{しよしゆ}）による）

〔注〕

シンポジウム——研究発表会、討論会^{とうろん}。

重鎮^{りゅうしん}——立派^{りっぱ}な存在^{そんざい}として皆^{みな}から重んじられている人物^{ぶつ}。

ニュアンス——ことばなどの微妙^{びみょう}な意味^み合いや違^{ちが}い。

おざなり——いいかげんに物事^{ぶつじ}をする様子。

あしらった——いいかげんに扱^{あつか}った。

風格——態度や様子などにあらわれた品格。

玩具——おもちゃ。

腐葉土——落ち葉が腐^{くさ}ってできた土。園芸などに用いる。

〔問題1〕^⑦ モノのやりとりのあいだに差しはさまれた「時間」とあり

ますが、「時間」以外で、商品交換と贈与を区別しているものを、**文章1** から五字で書きぬきなさい。

〔問題2〕^④ いろいろ思い当たるふしがありますが、筆者はひ

さしぶりに訪れた小学校を、どのようなものとしてとらえていますか。「よいデザイン」という言葉を用いて説明しなさい。

〔問題3〕 今後、あなたがだれかに手作りのプレゼントをわたすこと

になった場合、どのようなことを心がけようと思いますか。今のあなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と下の「**きまり**」にしたがうこと。

条件 ① **文章1**・**文章2**、それぞれの内容にふれること。

② 「①」の内容と、自分がプレゼントを作り、わたすうえで心がけたことを関連させて書くこと。

③ 適切に段落分け^{だんらく}をして書くこと。

〔**きまり**〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（ますの下に書いてもかまいません）。

○ 。と」が続く場合には、同じますに書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。

